

## 上市町学校教育審議会（第1回）

- 1 日 時 令和5年5月31日(水) 18時58分～21時30分
- 2 場 所 上市町役場 4階大ホール
- 3 審議委員 20名
- 4 出 席 中川町長、小竹副町長、牧田教育長、平井事務局長、  
平井教七次長  
〔 スタッフ 教委：藤田局長代理、森田局長代理 〕
- 5 概 要 次のとおり

(1) 開会

(2) 町長あいさつ（中川町長）（18時58分～19時10分）

(3) 審議委員、事務局の紹介

(4) 会長・副会長選出

会長に笹田茂樹委員、副会長に岡部一浩委員を選出

(5) 会長あいさつ

(6) 諮問

町長から笹田会長へ諮問書を手渡し、ここで町長は退席

(7) 議事

上市町学校教育審議会条例第6条により会長が議長となる。

・諮問事項及び資料の説明（19時16分～19時26分）

平井教育委員会事務局長より別紙資料に基づき説明

・質疑応答（19時27分～20時01分）

委員①

教育委員会としては、複式学級の解消と統廃合のどちらを優先するのか。

教育長

どちらを優先するとは言い難いが、複式学級は、教員の負担も考えると子どもの教育環境としてふさわしくないと思う。また、校舎の老朽化と1学年の子どもたちが町全て合わせても70数人ということから、一つにま

とめたらどうかということになった。

委員②

中央小学校を分散する案3は、行きたい学校に行けるのではなく、徒歩やバス等によって近くの学校に行くということか。

教育委員会事務局長

おっしゃるとおり自由選択ではなく、近くの校区に振り分けることになる。

委員③

案3の場合、中央小学校の場所に新校舎を建てる前提なのか。

教育委員会事務局長

特にそういう前提はない。

委員④

案3の場合、各学校に何人程度振り分けるのか。また、案2の場合、中央小は1クラス何人程度になるのか。

その場合、町が望ましいとしている25人を超える場合が出てくるのではないか。

教育委員会事務局長

通学距離などから校区をシミュレーションしており、概ねどの学校もさほど人数の差はないが、学年や地域で多少のばらつきは出ると思う。上市中央小に陽南小・白萩西部小が入る案2は、その人数がプラスされると理解していただきたい。場合によっては、1クラスが大人数になってしまうところは出てくるかもしれない。

委員④

せっかく一貫校になって1クラス35人というのはいかがか。

議長

国のルールを超えて、1クラスの人数を減らすとなると、追加する教員の給与を町が抱えなければならないことになるので、いた仕方ないこともあるだろう。

教育委員会事務局長

1クラス 15 人から 25 人というのは、まずは複式を作らないという 15 人であって、25 人というのは、当時の小学校校長に聞いたところ、一番学級運営がしやすい人数であった。仮に 35 人というクラスになった場合は、県教委から加配措置される可能性もあると聞いているが、町単独で対応するのは厳しい。

#### 委員⑤

案 2 だと、白萩西部小周辺に住む児童なら近いかもしれないが、通学距離が 4 キロ以上ある家庭もあるかもしれない。それをどう考えるか。

また、案によっては 2 回、統廃合を経験する場合も出てくる。

#### 教育委員会事務局長

確かに通学の問題は出てくる。そのまま徒歩で通える児童もいると思うが、バス通学などの検討が必要になると思う。

また、案 2 も案 3 も、児童が数回学校が変わる状況に相違はない。特に案 3 は場合によっては中学校までの間に 3 回変わる可能性がある。できるだけ児童の負担をなくすという点で、教育委員会としては、案 1 を基本としている。

#### 委員①

中央小には制服があり、他の学校にはない。例えば、中央小に一時的に行くと、制服を購入する必要が出てくる。また義務教育学校になったとしたら、同様に揃えなければならない。子どもだけじゃなく、親の負担にもなる。

#### 教育委員会事務局長

制服に限らず、校歌や校名の問題もある。統廃合の方向が決まった後に、それぞれ保護者の意見を伺いながら、決めていくしかないと考えている。

#### 委員⑥

現在、子どもが複式学級にいる。担任ではないが、非常勤講師がついて授業を分けていることで思ったより授業は進んでいる。複式学級の解消ができない状況は続くのか。

#### 教育委員会事務局長

町としては、複式学級を解消できるように担任ができる講師を雇用して、対応していきたいと思うが、本年度は担任できる講師を配置できなかった。町としては講師の確保に向け努力していきたい。

委員⑦

統合後の小学校の校舎や土地はどうなるのか。計画はあるのか。

副町長

有効活用を図るべきと認識しているが、まずは、この学校のあり方に関する議論を先にさせていただくこととし、一旦置かせていただきたい。

・意見交換（20時01分～21時30分）

議長

意見交換に移らせていただく。小学校の適正規模について、ご意見をいただきたい。

委員⑧

校區別懇談会の時に、単独町政を目指すのかと質問したところ、単独でという話だった。子どもの数からすると最後には1校になると思う。提示された案のうち、自分は案3だ。中央小が中央小であり続ける必要があるのか。中学校、小学校もどちらも老朽化していて、新しく造るということも避けられないし、数十億の大きなプロジェクトとなる。人口を増やすとか、町に住んでもらうことを考えた時、中央小の土地はすごく魅力的であり、こうした場所を学校として占拠し続けることもどうなのか。土地の有効活用が、町をどう創るかということにも関わってくるのではないかと。

委員⑤

自分が子どもの頃は、中央小は1学年200人で、それが当たり前とっていた。最近では人口減少で、1年間に70人しか生まれていない。人口増対策も頑張っているが、簡単には増えない。学校がないと地域が衰退するという不安はあるが、例えば団地を誘致したところで、いいのはその時だけである。1つの学校にする方がいいのではないかと。小さい学校の方がいいという考えもあるが、一つ間違えるとどうしても身動きが取れなくなる部分もあると思う。いじめや不登校の問題もあるが、規模が大きい方が友達も増える。できれば1つの学校にという思いを個人的には持っている。

委員⑨

子どもが多かった頃はスポーツ少年団活動も盛んであったが、今はスポーツ少年団もなくなり寂しい。諦めない心や努力する姿勢というのはスポーツ少年団時代に培ったと思っており、チームプレイができる環境は大事

かと思う。私はクラス規模 25 人程度という町の意見に賛成で、義務教育学校も仕方ないかと思う。しかし、地域の人たちにとっては大事な学校なので、学校独自の文化、伝統というものはしっかりと残してほしい。

#### 委員⑩

適正規模に関しては、教育委員会が示す 15 人から 25 人が適正と感じている。町の真ん中に小学校がなくてもいいのではないかと思う。通勤時間で車が町中に集中する時間帯に子どもたちも歩道のない状況で歩いて、危うい場面を何度も見ている。車の動線と子供の動線を分けて考えられたらと思う。通学時間と通学距離というところも特に拘らず、バス通学とかも積極的に取り入れていくことも必要なのではないか。

#### 委員⑪

私は中央小に通っていたが、今の中央小の校舎がものすごく古いと感じている。

案 1 の通り、令和 10 年に義務教育学校になるのならば、自分の子どもは在校生になることになる。家族の中でも、いずれ義務教育学校になるのではと話をした。閉校式のことを考えると、寂しい思いもあるが、時代が変わって、町も変化していくと、子どもが何か感じているのではないかと思う。70% 近くの方がほぼ統合に賛成しているということで、もうこれは決まったことだと言ってもいいのではないかと思う。発達障害のお子さんも増えて来ているということも聞いたので、そういったことへの対応が義務教育学校になると可能になるという期待をもっていきたい。

#### 委員⑫

自分は小学校 4 年の時に小学校が統合して、徒歩からバス通学に変わった。バスの時間に制限され、遊びの誘いを断ることで良くない空気感が漂った。そうした点をどんなふうフォローしていくか考えていかななくてはならない。中心部の方に通学する場合もあると思うが、低学年の児童が少ない場合、ポツポツと帰ってくる姿をたまに見かける。一部の地区では、車の多い通りを帰ってこなければならぬ。小さい子どもが川に流されてしまう心配もある。また、学校の規模が大きくなると、ちょっと怖いと感じるお子さんもおられるのではないか。

#### 委員⑬

子ども同士の学び合いという視点で考えると、多様な考え方や見方に触れられることが大切である。人数が少ないと、固定的な友達関係になるので、ある程度の人数が必要ではないか。教員が一人一人の子どもの良さを

認めることができ、学習を十分に指導ができることからすれば 25 人程度がいいのではないか。複式学級は、カリキュラムをどうするかという課題もあり、避けられるといい。今後も子どもたちが安心して学んでいけるような環境について話し合っていきたい。

#### 委員⑦

少子化とか町の衰退という話に心痛めながら話を聞いていた。統廃合を体験するであろう子どもの親として 1 点だけ不安に思っている。中 1 ギャップの解消が期待できるという点は、確かにと考えたが、統廃合した初年度は、子どもたちにとって慣れない環境なので、何かあるのではないかとと思う。子どもの目線も大切にしながら話をしていければと思う。

#### 委員①

県外からの移住で、町には 20 年ほど在住している。自分の中では、案 1 がいいと思っている。他の案は、時間が非常に長くかかるのとコスト的にもかかるのではないかと、思っている。町中心部に学校がなくてもいいのでは、という意見もあったが、私は反対である。公共の整備であったり、信号であったり、新しい学校を創っていくにあたり、町づくりの整備もしていく必要があるのではないかと。どの案にしても、校舎の基本設計、プラン等々、入札、落札して、建設して、そこから学校の校風だとか理念を決めていくなどしていたら、最短で令和 10 年ということは、もう時間が迫っているという状態ではないかと思っている。

#### 委員⑭

複式学級のある学校に子供を通わせている。適正規模は 15 人から十数人ぐらいがいいのではと思う。先生が授業をしやすく、子供たちが聞きやすいのではないかとというのが理由である。小学校の統廃合の話聞いた時は、とてもショックで、親も子も愛着のある小学校が廃校になることを想像するととても悲しい気持ちになったが、町の話聞き、校區別懇談会に参加しているうちに、義務教育学校も悪くないのではないかと、むしろ中 1 ギャップがなくなるのなら良いのではないかと考えるようになった。3 つの案それぞれにプラスの面とマイナスの面があるが、皆さんの意見を参考にして自分の考えも整理していきたいと思う。今後に向けて白萩西部小と陽南小がたくさん交流をしていければと思う。また、案 3 も結構よいのではという思いもある。なんとか子供たちの気持ちをプラスにもっていけるよう考えていきたい。

#### 委員⑮

案3はないと思う。複式学級を解消することが先なので、白萩西部小と陽南小を中央小に吸収するというのが先決ではないか。義務教育学校の場所は今の中央小の場所がいいのではないかと思う。町の中心部に通う形がよいと感じる。子どもを徒歩で学校に通わせるとしたら、歩道のない道を通わせたくない。中央小の場所であれば町の中心部で、まだ比較的歩道が確保されているかと思う。

#### 委員④

私は上市町の出身ではない。私が通っていた中学校は、統廃合でなくなったが、統廃合を進めていけばいいのではないかと思う。義務教育学校で校長が1人になってしまうと、リーダーシップを発揮していくことができるという面もあるがデメリットもある。また、9年間同一の集団で学ぶということもデメリット。落ちこぼれてしまうとか、馴染めないという子に対して、もう少し手厚くやっていくことを並行して進めていかないといけないと思う。小学校6年生の活躍の機会が失われるということについては、デメリットとして恐れなくてもいいのではと思う。

どうしてもバス通学というのは、避けられない問題だと思う。

#### 委員⑩

小学校適正規模に関する考え方、学級数や1学級の児童数については、かなり理想的な数字ではないかと思う。校舎の建った年数と子どもたちのことを考えると、一年でも早く新しい校舎、新しいグラウンドで過ごさせてあげたいと思う。義務教育学校ということになると、小中1校ということになるので、新しい全国にないような学校にして、それが上市町の新しいきっかけとなればと思う。個人的な考えとして、小中一貫教育校というものもなくはないと思うが新しい校舎2つを建てることは難しいと思う。

#### 委員⑰

基本的な人数は教育委員会が望ましいとしている15人から25人程度がいいのではないか。案1の義務教育学校化によって、小学校の先生がずっといるのは子どもたちにとって安心感がある。小学校の高学年ぐらいから思春期を迎える子どもにしたら、小学校から中学校にかわることは不安だと思う。他がやっていないことを上市がやって、上市に住みたい、上市の学校に行かせたいと言われるような町づくりにしていけばよいのではないか。先生方の人間力が問われると思うが、保護者も一緒になって教育の場に参加できるような環境づくりも併せてやっていけばよいのではないか。子どもたちが一番負担を強いられると思うので、周りの大人や先生方が繊細な気持ちをもって、フォローすることが大事だと思う。

#### 委員⑥

親としては、義務教育学校の前に、複式学級をなんとか解消してほしいという希望がある。案2で行くのであれば、白萩西部小と陽南小の保護者に意見を聞いた方が、案3で行くのであれば中央小の保護者に意見を聞いた方がいい。また、小規模は学年によっては男女比のバランスが著しく悪い状況があり問題だと思う。

#### 委員②

どれだけの子どもを見られるかは先生にもよるが、適正な規模は15人から25人だと思う。今の上市町の教育は充実しているという印象がある。保育園からつながった支援があり、義務教育学校となった時に、インクルーシブ教育を本当に実現したいのであれば、その子の良さ、良いところをしっかりと見てあげられる教育を考えてもらいたい。建物も大事だが、中身を重視して、子どもたちを大人たちが見守るという視点で新しい学校を創ってほしい。今の子どもたちの声を聞くのも大事だと思う。

#### 委員③

適正規模に関しては、教育委員会から提示された15人から25人で良いと思う。どの案を選択するにしても、メリットデメリットはある。子どもたちが元気ということを中心に考え、最終的に義務教育学校になるのであれば、一年でも早く目指していくべきと思う。各校の校風が違い、特色がそれぞれあるので、6つの学校を合わせることで、より地域の利点、地域みんなで子どもたちを育てる形を作っていけると思う。上市で子どもを育てたいと思うような学校となるよう考えていくことが大事だ。

#### 委員⑱

上市町の人口そのものが減少していて、子どもたちの数も激減しているという状況は、将来的に見過ごせない。学校の再編は、やむを得ないと思う。上市町では、これまで何回も学校の合併があり、廃校も経験している。学校は、その地域の人たちだけのものという考え方は捨ててほしい。案1はプラスマイナスあると思うが、実施する年から逆算して、早く順番に解決していただければと思う。素晴らしい学校を、先生方と役場と共に、町民として考えていければと思う。いい例として、上市中学校では、昨年からは部活動の地域クラブへの完全移行を富山県で初めて進めている。

#### 委員⑲

人口減少の中で統廃合は避けられず、方向性としては仕方ないが、実現



可能性からすると、三案いずれも、場所、コスト、時間軸がみえないと何のために時間を割いて、議論するのかということになる。場所が変われば通学の時間も変わるので、前提条件をある段階でお示しいただきたい。今後は事前に質問事項を送ってもらって、その質問には先に答えておくというような工夫をお願いしたい。案により統合の時期が違い、その時点の人口や小学校、中学校の人数も違ってくるので、あらかじめ数字を見せてもらえるのであれば、具体的な議論もできるのではないかと。

議長

各委員の皆様ありがとうございました。最後の方がお話されていたように、三案それぞれについて、具体的に何年度であったら、何人ぐらいの規模になるかということは予測できると思うのでお示してください。私自身の考えとしては、総合教育会議でまとめられた15人から25人程度が理想だと思う。ただ、国の制度としては、35人学級となっており、その点をいかに乗り越えられるかは難しいが、出来る限り20人ぐらいになるような努力をしていただければと思う。

教育委員会事務局長

今後の日程について、予定としては、次回は7月になる。およそ2カ月ごとに開催したい。

議長

追加資料の義務教育学校と小中一貫校の説明については次回での議題となることから、事前に一読いただき考えをまとめてもらいたい。

(8) 閉会

以上